

かゑらじと かねて思へハ 梓弓
なき数に入る 名をぞとどむる
四條畷に散った若き武将、楠正行

楠正行通信 第50号

平成29年6月13日

発行＝四條畷楠正行の会

〒575-0021 四條畷市南野5丁目2番16号

四條畷市立教育文化センター内 072-878-0020

「楠正行絵本」制作プロジェクト始動！

大阪電気通信大学（社会プロジェクト実習）に依頼

「武将・楠正行を後世に伝える」

四條畷楠正行の会では、大阪電気通信大学・総合情報学部デジタルゲーム学科の木子香教室に依頼し、同大学の平成29年度社会プロジェクト実習の1講座として「武将・楠正行を後世に伝える」（絵本制作）を授業展開して頂くことになりました。

本プロジェクトの目的は、大阪電気通信大学四條畷キャンパスの地元にある四條畷神社には、南朝の武将、楠正行が祀られていることから、武士道の人、楠正行の理解と顕彰が多くの人、特に若い世代に広がるよう絵本を作成し、楠正行は四條畷市が誇りとするゆかりの人物であることを後世に永く刻み、語り伝えることです。

プロジェクトの具体的な内容としては、南朝武将、楠正行は家門の為ではなく、天下国家の為に尽くし、何より「智」「仁」「勇」を備えた武士道を極めた人物で、若くして戦死した郷土の誇りとなっています。そこで、楠正行の短い生涯にあるエピソードをセレクトし、絵本という媒体で表現しようというものです。

6分冊・1巻本で、10月完成予定

この実習授業は、平成29年度の通年授業・3年生の必修授業「社会プロジェクト実習」の1プログラムとして開かれ、四條畷楠正行の会がクライアントとして全面協力、四條畷市の後援を得て、学内学習・学外学習・作品制作の3つのフェーズで構成されています。

また、制作段階で何度かのプレゼンテーション（発表）を行い、作品の完成度を高めます。

作品制作は、6グループで行い、テーマに沿って6分冊・1巻本の成果品とします。成果品となる絵本は、四條畷市の図書館に寄贈し、多くの子ども達や大人の皆さんにも読んでいただけるようにします。

絵具によるアナログ作品を基本としますが、デジタル作品も可とします。10月の完成予定です。

□5月17日（第1回講義）

南北朝時代の人々の生活と楠正行の生き立ち

教育長・市民生活部長・産業観光課長も出席

5月17日（水）、5限に第1回講義が開かれ、大学から木子香講師、19人の学生、広報課職員、四條畷市から森田教育長・山本部長・西岡課長の3人、四條畷楠正行の会から講師役の扇谷と6人の会員が出席しました。

扇谷は、パワーポイント資料を使って正行の生きた時代の背景等について講義し、講義終了後、各グループに分かれ、市職員や正行の会メンバーも入り、それぞれ議論を深めました。



↑5月17日の講義の様子（大阪電気通信大学で）

□5月20日 学外学習・観心寺（河内長野市）

永島龍弘前住職、飛び入りの講話も

5月20日（土）、南海河内長野駅に集合して現地に向かう予定でしたが、私たち正行の会のメンバーの車中での正行談議が盛り上がり、集合時刻に間に合わないというハプニングで、急きよ、タクシーで向かうことに。

観心寺に到着し、趣旨をお伝えしたところ、事前のポイントがなかったにもかかわらず、永島龍弘前住職のお話をお聞きすることができました。

お話の最後に、「正行の絵本だけでなく、ぜひ、正成の絵本も作ってください。」とうれしい注文も。

しかもラッキーなことに、恩賜講堂が重要文化財指定の答申を受けたという事で、この日一般開放されており、幅約22m、奥行き約24mの入母屋造りの建物は、中に入ると約6.5mという高い二重折上格天上には色鮮やかな色彩の宝相華文様の装飾、豪華な3基のシャンデリアとともに柱の全く



飛び込んできました。
→上の写真
学生に説明する扇谷（観心寺訶梨帝母天堂前で）
→下の写真



永島龍弘前住職の話に聞き入る学生（観心寺中院前で）

□5月24日（第2回講義）

1部 スクリーン紙芝居映像「正成、正行の生涯」

2部 楠正行の生きざまを繙く

学び、友、大志、最期等を講義

この日、市役所からは西口教育部長、田中図書館長代理の二人が出席されました。

この日の講義は、第1部で、四條畷楠正行の会が制作した映像スクリーン紙芝居を約16分上演しました。

そして、第2部の「楠正行の生きざまを繙く」では、正行の生きざまを、「学び～正行が受けた教育」、「情け～大川におぼれる敵兵を救う」、「恋～大切な人が故、結婚を断る」、「大志～父の教えを守り、自ら立てた志一筋に生きる」、「友～やさしい正行、その最愛の友は武勇に優れた従兄弟の賢秀」、「正行の最期～吉野詣でと四條畷の合戦」の6テーマに沿って学びました。

「学び」では、師、龍覚坊は「武士は、いついかなる場所に身を置いても困らぬ用意が必要なのだ。針仕事も、立派な武士になる学問」と教えた、と伝えました。

「情け」では、大川におぼれる敵兵を救うという正行の渡辺橋の美談が故、日本が国際赤十字に加盟できたと

いう伝承を紹介。

「恋」では、高師直の拉致から弁の内侍を救った正行、大切な人であるがゆえに、決戦の覚悟を前に結婚を断ったというエピソードを紹介。

「大志」では、父なき後、正統な南朝復権のために、武士道の精神のもと、死をも顧みず突き進むという美学、潔さに生きた正行について語りました。

「友」では、楠公さんと慕われる父、正成のもと、正時と正義、二人の弟、そして従兄弟の賢秀等と遊びに興じ、切磋琢磨して成長した話を紹介。

「最期」では、吉野に詣でた正行の心情、そして正平3年1月5日の四條畷の戦いについて紹介。

□5月31日（第3回講義）

太平記に載る四條畷の合戦と楠正行

絵葉書による絵物語上映と朗読

この日は、大楠公御一代記（湊川神社）、小楠公一代記（如意輪寺）大楠公夫人絵伝（楠妣庵観音寺）の3つの絵葉書から抽出した映像をスクリーンに映し出しながら、太平記の関係するくだりを朗読しました。

そして後半、6グループに分かれての自由討議となりましたが、ここで嬉しいことがありました。

6グループの内、3グループで一つのテーマが取り合いになりましたが、リーダーらの協議で、ほかのテーマに代わるグループが2つ出て、円満解決しました。最悪、プレゼンで決定という事も考えていましたが、学生さん

たちの取り組み姿勢に感激する一場面でした。

→5月31日の講義の様子



□6月3日 学外学習（大阪市・四條畷市）

渡辺橋・四條畷駅・四條畷神社・小楠公墓所・和田賢秀墓・歴史民俗資料館

四條畷の小楠公像、じっくり鑑賞

訪れた渡辺橋、小楠公義戦の跡碑の前で、扇谷から、正行の美談とともに、今年は日本赤十字社の国際赤十字社加盟130年にあたることを紹介しました。

四條畷駅改札口出た直ぐコンビニの後ろにある小楠公像では、学生らは釘付け。些細なことも見落とすまいと、グループに分かれてじっくりと観察をし、その後、市内の正行関係の地を訪ねて歩きました。

（文責「四條畷楠正行の会」代表 扇谷昭）